

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ意見まとめ

地区	蒲郡南地区	回数	第2回
日時	平成30年8月19日(日) 午後1時30分～午後4時30分		
会場	蒲郡中学校 図書室	参加者数	32名

### 1. 課題解決に向けた視点について

#### 1) 追加すべき視点

「⑤防災・防犯」に、「防犯・防災を考えた施設やまちづくりが必要」とあるが、まちづくりにおける防犯は、広範囲すぎて、今回のワークショップの趣旨と合わない。防犯については、「公共施設の複合化に伴う防犯」といった視点に絞り込んだ方がよい。

- ・ 「⑤防災・防犯」については、「まちづくりの視点からの防犯」も検討することになっているようだが、広範囲すぎて今回のワークショップの趣旨とは合わないと思う。「防犯」については、「公共施設の複合化に伴う防犯」といった視点に絞り込んだ方がよいのではないか。

#### 2) 視点ごとの意見

##### ① 地区での活動・交流の盛り上がり

行政区と学校区がちぐはぐになっているエリアについては、今回の公共施設の再編や学校の統廃合の検討と併せて、これまでの経緯や現状を踏まえ、市がきちんと検討し、見直す必要がある。竹島小学校に通う三谷地区の児童には、三谷小学校に通う児童たちと同じように、学校教育を通じて、地域の象徴である「三谷祭」に関わりを持たせてあげたい。

- ・ 行政区と学校区がちぐはぐになっているエリアについては、自分たちでは解決できないことだと思う。これまでの経緯や現状を踏まえて、今回の公共施設の再編と併せて市がきちんと検討していかなければいけないことだろう。
- ・ 学校区と行政区の境界線が異なる場所が多いので、小中学校の統廃合の際に一斉に見直しが必要である。
- ・ 地域の象徴である「三谷祭」は、地元の三谷小学校の子ども達に参加・体験してもらいながら一緒に作り上げ、次世代に継承している。竹島小学校に通う三谷地区の子ども達にも、地域への愛着を育てるため、小学校の教育を通じて同様の体験をさせてあげたい。小学校の統廃合を考える際には学校区の再整理を行ってほしい。

公民館は、若い世代の利用が少なく、将来利用者がいなくなってしまうのではないかと心配である。若者が利用したくなる施設にするために、防音室やワンフロアの広い部屋、スポーツジム等を整備したり、利用しようと思いたくなるプログラムづくりが必要である。特に中高生は集える場所がないことから、公民館で中高生のための居場所づくりができると良い。

- ・ 公民館は、設備が古くて利便性が悪いので若い世代にとって気軽に使いにくい。
- ・ 公民館の利用者は60歳以上の高齢者が多く若者が少ない。このままでは30年後の将来は利用者がいなくなる。つまり、もっと若い世代も利用したくなる施設にしていくべきである。
- ・ 若い世代の公民館利用を増やすために、例えば防音室やワンフロアの広い部屋、スポーツジム、ランニングやウォーキングができるコースなど、施設・設備を充実したらどうか。
- ・ 乳幼児・小学生は児童館、大人は公民館など集まる場所があるが、中高生が遊んだり、集まれるような場所がない。中高生が集う居場所や、大人と交流できる場があるとよい。

公民館の利用率を上げるために、区内にある中央子育て支援センターのような機能を各公民館に持たせるなど、子育て支援に役立つ利用法を考えるとよい。

- ・ 公民館の利用率が低いならば、もっと子育て支援に役立つ施設や利用法を考えるとよい。地区にある中央子育て支援センターのような機能を各公民館が持つとよい。

公民館は地域とのつながりが強すぎて、新しい住民には利用しにくかったり、何をやっている施設なのか知らなかったりする。公民館はどのような施設で、どのような活動ができるのか、わかりやすく伝えるとともに、新住民からどのようなことをしてみたいのかを聞き取る機会があるとよい。また、『公民館だより』がマンネリ化の傾向があるので、内容を工夫できるとよい。

- ・ 公民館だよりの内容が毎回同じなので、見直しが必要ではないか。
- ・ 公民館は地域とのつながりが強すぎて、新しい住民は参加したり利用したりしにくい。どんな活動ができるかわかりやすく伝えるとともに、どんなことをやりたいのか教えてもらえる機会があるとよい。

公民館は、類似するクラブや活動は統合して、時間や場所を有効活用できるのではないかと。また、図書館、カフェやスポーツができるなど、様々な目的で多世代が集まることができると多機能施設があるとにぎわいと交流が生まれてよいだろう。

- ・ 図書館やカフェ、スポーツが出来るなど、ひとつの場所で色々なことができる多機能施設があると良い。様々な目的で多様な人が集まることでにぎわいや交流が生まれる。
- ・ 公民館の利用者を増やす方法として、類似するクラブを統合して、時間や場所をより有効活用できるようにしたらどうか。
- ・ 公民館などで、卓球やバドミントンなど高齢者と小中学生の交流といった多世代交流をすると利用促進になる。

日々、地域活動等で交流事業に取り組んでいるが、なかなか人が集まらない状況である。ニーズがないのに無理して交流する施設をつくる必要があるのか疑問である。

- ・ 地域の役員として地域活動等で交流事業に取り組むが、なかなか人は集まらない。ニーズがないのに無理して交流する施設をつくる必要があるのか疑問。

## ② 学校教育環境の適正化

良いかどうかは別の議論になるが、市の「公共施設の床面積を3割縮減する」という方針を踏まえると、最も効果があるのは延床面積が大きい学校を統廃合することになる。地区公共施設の再編に影響の大きい、小中学校の統廃合をどうするのかを先行して議論すべきである。

- ・ 良いかどうかは別の議論になるが、市の「公共施設の床面積を3割縮減する」という方針を踏まえると、最も効果があるのは延床面積が大きい学校を統廃合することになるだろう。
- ・ 地区公共施設の再編を検討するにあたり、再編に影響の大きい小中学校の統廃合をするか、しないかについて先行して議論すべきである。

学校の統廃合について、教育委員会の見解を知りたい。教育環境としてどの程度の児童・生徒数が適正なのかなどをあくまでも子どもの視点に立って考える必要がある。また、P T Aをはじめとする当事者達の意見を尊重すべきである。

- ・ 小学校の統廃合については、ワークショップ参加者よりも、当事者であるP T Aの意向を尊重すべき。
- ・ 小中学校の統廃合について、教育委員会の見解を知りたい。
- ・ 運動場の確保や、多様な部活動の選択など、教育環境としてどれくらいの児童・生徒数が適正なのか、あくまでも子ども達の視点に立って考える必要がある。

行政区や学校区が異なることが地域にとっての課題になっている。子どもはそこまで気にならないかもしれないが、親世代にとっては、P T Aや自治会などで関わるコミュニティのズレに混乱してしまう。昔のように学校区と行政区のズレがないよう、元に戻した方がよい。

- ・ 竹島小学校ができるときに東部地域の平田町の一部が東部小学区から竹島小学区に編入されてしまった。今回、もしも竹島小学校が再編されるならば、元の平田町の一部を再び東部小学区に戻してほしい。地域コミュニティと学区がズレているのは直すべきである。

学校区と常会の範囲とのズレがある。子どもは気にならないと思うが、親はP T Aや自治会など関わるコミュニティのズレに混乱する。小学校区は昔の形に戻すのが良いのではないだろうか。みんなが納得する形のように思う。

子どもが少なすぎると、学校施設が有効利用されない。スクールバスを充実させるなど

して広い学校区での再編も考えれば、児童数が増え部活動などはメリットがある。母校意識だけでなく、時に合理的な視点も必要である。

- ・ スクールバスが充実すれば、広い学校区での再編も考えられる。海外はスクールバス通学も一般的だ。児童数が多い学校も部活動などではメリットもある。母校意識だけでなく合理的な視点も必要である。
- ・ 全ての小中学校の耐震補強は済んでいるので、統廃合を考える際にはどれだけ施設が有効利用されているかがポイントである。子どもが少なすぎると施設が十分に利用されない。

暫定活用も含めた空き教室の活用は、例えば、災害時の仮設住宅として機能できるようにしたり、新たな技術や田舎暮らしを体験する宿泊施設にしたり、地域の歴史を展示するなど学びの空間にできるとよい。また、教室を小さな空間に区切れば活用しやすいのではないか。

- ・ 空き教室の有効利用の方策として、パーティションで区切って、小さな単位で利用できる空間を確保しやすくしたらどうか。
- ・ 空き教室の暫定的な有効活用方策として、例えば災害時の仮設住宅や、シニア世代が新たな技術や田舎暮らしなどを学ぶ宿泊施設（合宿所）として活用したらどうか。
- ・ 学校の空き教室の有効活用策として、地域の歴史を展示して学ぶ場所に使うといい。岡崎市の鳥川小学校は廃校後にホテル学校として地域で再活用している。

統廃合後の空いた敷地については、地域のニーズや課題に応じた新たな施設として有効活用したい。

- ・ 小中学校の統廃合を進めることで、空いた用地には、地域のニーズや課題に応じた新たな施設として有効活用したい。

### ③ 子育てしやすい環境づくり

30年後の将来を考えるのであれば、子育てしやすい環境づくりを最優先するべきである。人口減少は仕方がないことかもしれないが、縮小策ばかりを考えるのではなく、公共施設の適正配置により子育て環境を整えることや出生率を上げる取り組み、住宅政策など、若い子育て層が周辺市町に流出しないよう、子育て層が住みやすい地区になるような策を練るべきである。

- ・ 30年後の将来目標ならば、まずは子育て環境を最優先するべき。
- ・ 人口減少は仕方がないことかもしれないが、せめて予測よりも緩やかなスピードで減少できないだろうか。子育て層が住みやすい地区にしていけば、人口減のスピードは抑えられる。そのような手立てを検討していきたい。
- ・ 縮小策ばかりを考えるのではなく、出生率を上げる方策も同時に考えるべき（フランスの事例なども参考に）。

- ・ 若い子育て世代は幸田町など周辺市町に流出している。流出を食い止め若い世代が増加する方策も検討すべき。
- ・ 住宅政策とセットで公共施設の適正配置を考えることで、結果、子育てしやすい環境になり、子育て世代の移住・定住が進むなど、人口増加の効果も期待できる。
- ・ 4つある公民館のうち、ひとつをなくして宅地化すれば、人口増加につながるし、若い世代や子育て層も移ってくるのではないだろうか。

**共働き家庭が当たり前になっているため、休日保育や病児保育などのサービスが充実するとよい。**

- ・ 共働きする家庭が当たり前になっているため、休日保育や病児保育などのサービスが充実するのがよい。南部保育園も新しく人気があり、既に手狭になっていると聞いている。

**子育て層にとっては、子育て支援施設や子どもが遊ぶ空間は、集約した方が便利だし活気づくだろう。施設を複合化する際には考慮して進めてほしい。また、小学校や保育園なども集約されていれば、お迎えがまとめてできて、災害時の安全面でもよいだろう。**

- ・ 子育て層にとっては、子育て関係の施設は、ひとつの箇所に集約されていた方が便利である。複合化する際には、そのようなことに考慮して進めてほしい。
- ・ 公民館は、年配の方が利用している印象が強く、子育て層は、わざわざ公民館に行こうと思わない。今後もそれは変わらないと思う。それよりも子育て支援施設に子どもが遊べる空間を設置するなど、集約した方が利用されると思うし、活気づくだろう。
- ・ 保育園と小学校は同じ場所にあると、お迎えが一度にできてありがたい。特に災害時は、一か所にあるのは、安全面でも良い。
- ・ 子ども関係の施設は複合化した方が、親の送迎や見守りなど、子育てしやすい環境になる。
- ・ 子どもの遊び場は、児童館(室内)と公園(屋外)が隣り合うように立地すると利用しやすい。また、施設が減って遠方の利用が増えれば駐車場もさらに必要になる。

**愛知県児童総合センター(長久手市)、豊橋市民病院の跡地にあるこども未来館(ココニコ/豊橋市)などは、様々な子育て機能を集約させた複合施設として整備されていて、駅や車でのアクセスも良い。このように子育て層に役立つ機能が全て集約された複合施設があれば、子育て層は移り住んでくる。**

- ・ 長久手市にある愛知県児童総合センターは、規模が大きく、様々な設備やプログラムが整備されている。そのような施設をつくることができれば、子育て層も移り住んでくるだろう。
- ・ 例えば、豊橋市民病院の跡地を活用してつくった、こども未来館(ココニコ)は、様々な子育て機能が集約された複合施設である。豊橋駅からも近くてバスも通り、アクセ

スが良い。また、駐車場スペースも広い。蒲郡南地区も駅があるので、立地を活かしてこのような施設ができないだろうか。

- ・ ある私鉄の高架下を有効活用して、保育園も含めた子育て関係の施設を設置した地域があると聞いた。地面の材質は全天候型で駐車場も整備されているようだ。JRでは実現は難しいかもしれないが、本地区は駅もあることだし、このような子育て層に役立つ施設があれば、子育て層が移り住んでくるのではないか。

保育園へ子どもを送迎する際、駐車場が不足していたり、雨天時に園まで濡れてしまう施設がある。農地や空き地を確保することで駐車場を整備したり、雨除けの対策のための整備をしてほしい。

- ・ 東部保育園は、現状では駐車場が不足し、送り迎えの際に保護者が車を止めにくく不便な状況のようだ。利用しやすくするために、周辺の農地や空き地などを市が確保して、駐車場を増設したらどうか。
- ・ 乳幼児が通う施設は、ファサードや雨避けを設置するなどして、雨にぬれずに施設に入れるようになると良い。

#### ④ 高齢者のにぎわい

高齢者層の知識、経験、人脈を生かして活躍してもらい仕組みづくりが大切である。例えば、公民館は、元気なシニア層をトレーナーとして育成し、同世代の立場から健康づくりや介護予防を支えられるようにするなどにより、高齢者を中心した施設として活気づかせたい。

- ・ 公民館は、子育て層には遠い存在である。若い層に来てもらう工夫や、多世代交流の仕組みを検討するよりは、現状を活かして、いっそ高齢者を中心した元気な施設として整備した方が活気づいてよいと思う。
- ・ 公民館を活用して元気なシニアにトレーナー育成を行い、身近な高齢者に対して同世代の立場から健康づくりや介護予防を支え、お互いにイキイキと元気にしたい。
- ・ 少子高齢化の時代でも、シニアの生産性を高めれば地域が元気になり活性化する。シニアの知識や経験、人脈を生かして活躍してもらうことが地域にも本人のためにも重要である。

アクセスがよい場所に高齢者が集う施設を建設したり、公共交通を充実させることで、高齢者と地域との関わりを持続させ、孤立化を防ぎたい。

- ・ 高齢者の介護を地域の中で行えるようにするのが、これからの社会には必要である。高齢者が集う場所がアクセスしやすければ、孤立化も防ぐことができ、地域との関わりも持てるようになる。
- ・ 高齢者が利用する施設は、利用しやすいように公共交通（バス）が通る場所に建設したり、新たにバス路線を通すことなどを検討する必要がある。

- ・ 高齢者の方などが不自由にならないようアクセスへの配慮が必要である。

高齢者や乳幼児はインフルエンザなどの感染症のリスクがある。複合化する際には、感染症対策にも配慮する必要がある。

- ・ 高齢者が利用する施設と学校を複合化する際には感染症や防犯などの対策を十分に取る必要がある。
- ・ 冬場、特に高齢者や乳幼児はインフルエンザなどの感染症のリスクがある。施設を複合化する際には、感染症対策などにも配慮する必要がある。

#### ⑤ 防犯・防災

防災には、住民による自主防災組織など地域の役割が重要で、例えば、保育園で災害が起きた時、保育士だけで児童を避難させるのは大変なことから、いざという時にスムーズに避難できるように、地域と連携をとることが大切である。府相保育園は、津波浸水想定域内に位置することから、移設するにしても、地域と連携がしやすく避難させやすい場所に移れるとよい。

- ・ 防災には、住民による自主防災組織の強化が重要になる。
- ・ 災害時に、保育士だけで児童を避難させるのは大変なことである。日頃から地域との関係づくりをし、いざという時に協力し合って避難することができることとよい。府相保育園は、津波浸水想定域内に位置することから、日頃から避難訓練を実施しているが、移設するにしても地域と連携がとりやすい場所に移れるとよいと思う。
- ・ 保育園で災害が起きた時、保育士だけで乳幼児・園児を避難させるのは難しい。施設の立地や避難経路など安全面の確保が必要である。
- ・ 津波浸水想定域にある施設は、安全な場所への移転が必要である。

竹島小学校は避難所に指定されているが、周辺が観光地であることから、災害時には住民だけでなく観光客も集中することが予想される。災害時の観光客への対応を地域としてどうすべきか検討をしておく必要がある。

- ・ 竹島小学校は避難所に指定されているが、竹島周辺は、観光地でもある。クラシックホテルほか周辺ホテルも一時避難場所となっているように、当然、災害時は住民だけでなく観光客も避難してくるであろう。災害時の観光客の受け入れを地域としてどうするのか、対応を考えておかなければならない。
- ・ 蒲郡南地区は、駅もあり観光地でもある。一方、空き地が少なく、ビルなどの建物からのガラス破片が飛ぶ危険性もある。結果、災害時には、学校などの避難所に住民だけでなく観光客も集中することが考えられる。観光客も含めた避難人口の想定、避難場所の確保が必要だろう。

避難所はその地区住民でない方も含めて誰でも避難することができることを周知されてい

ない。観光客のためにも案内板等で日頃から避難所を周知徹底しておく必要がある。

- ・ 住民だけでなく、観光客のためにも案内板等で日頃から避難所を周知徹底しておくたい。
- ・ 防潮壁などの津波・高潮対策は行っているのか。また、防災や防犯の取組について、例えば避難所は誰でも避難できることなど知られていないことが多いので、もっと周知する必要がある。

公共施設の再編に伴い、避難所の数が減り、収容人数が不足したり救援物資が足りないことがないよう、また、避難路が渋滞にならぬよう、計画的に取り組んでほしい。

- ・ 公共施設が減少しても、身近な避難所の数が減って収容人数が不足することがないように、計画的にしっかり確保してほしい。
- ・ 公共施設の統廃合を進めた結果、災害時に避難経路に避難者が集中したり、道路が渋滞したり、救援物資が集中するなどの弊害がないかが心配である。

災害時に車で避難することに備えて、車での避難ルートや駐車場の位置、空きスペースの確認なども予め把握しておく必要がある。

- ・ 災害時は車で避難することもあるので、車での避難ルートや駐車場の位置や空きスペースの確認なども予め把握しておく必要がある。

## ⑥ 利便性の確保

子育て層にとっては、小学校や児童館など子どもに関連する施設が近くにあると連携しやすく、便利である。また、そのような子育て関連施設にコミュニティバスを通せば、子育て層が生活しやすい地区になるだろう。

- ・ コミュニティバスの整備は、高齢者ばかりでなく、子育て層にとっても重要である。子育て関連施設も走行ルートにに入れてほしい。
- ・ 公園と児童館が隣接していたり、小学校や児童館が近くにあると、連携しやすいし、行き来もしやすくなる。そういった場所にコミュニティバスを通せば、子育て層も生活しやすい地区になるだろう。

高齢者向けに公共施設を巡回するバスとしてだけでなく、観光客も利用できるコミュニティバスを通せば、観光客誘致にもつながるし、収益も見込める。

- ・ 各施設を巡回するバスを走らせることで、高齢者だけでなく観光客にも利用してもらえるのではないかと。観光客誘致にもなるし、収益も見込めるのではないかと。
- ・ コミュニティバスにも一日乗車券などがあると、気軽に利用できるのではないかと。
- ・ 公共施設の再編を進めた結果、公共施設までの距離が遠くなる高齢者も多くなるので、循環バスなどでつないで使いやすくなるように配慮してほしい。



採算性や利用率からみると果たしてコミュニティバスが本当に必要だろうか。乗合タクシーなど、代替案を検討する必要がある。

- ・ 採算性や利用されるかを考えたときに、コミュニティバスが本当に必要なのか検討が必要。乗合タクシーなど、代替案も同時に検討する必要がある。

アクセスの向上だけでなく、道路整備も進めてほしい。特に、各施設に行くまでの歩道整備は重要である。できれば、歩車分離にしてほしい。

- ・ アクセス向上だけでなく、道路の整備も進めてほしい。特に、各施設に行くまでの歩道の整備は重要である。できれば歩車分離にしてほしい。

高齢者や小学生が利用する施設は、アクセスのしやすさや集まりやすさを考慮し、各地区から歩いていける距離にあるとよい。

- ・ 高齢者や小学生が居場所となる施設、利用する施設は利用のしやすさ、集まりやすさを考え歩いていける場所にある方がよい。

保育園送迎用の車を停めるための駐車場など、各公共施設に、十分な広さの駐車場、自転車置き場、ベビーカー等が置けるスペースを確保してほしい。

- ・ 保育園の送り迎えは車で行われることが多い。がまごおり児童館も子連れで訪れる利用者は車で来ることが多いので、十分な駐車場が必要である。
- ・ 公共施設は車で訪れる方も多く、災害時の避難場所としても十分な駐車場が確保されている必要がある。
- ・ 中高生が利用する施設には自転車置き場が必要。
- ・ 乳幼児や高齢者が利用する施設にはベビーカーやカートがおける場所があった方がよい。

## ⑦ 将来負担の縮減

公共施設の床面積3割縮減が目標とのことだが、コスト面での縮減目標を知りたい。各施設を維持するためのコストも明らかにして、施設再編を検討した方がよい。

- ・ 床面積規模で3割縮減の目標がでていますが、具体的に将来コストでの縮減目標を知りたい。各施設の維持コストを明らかにして、施設再編を検討した方が分かりやすい。

## ⑧ 運営の改善

「公民館」という名称は、子育て層にとって魅力的ではない。プログラムや取組みを子育て層が参加しやすい内容にする工夫も大切だが同時に名称を変更したり、市の窓口業務も対応するなどの試みもしないと、利用率は上がらないのではないかと。

- ・ 公民館という名称は、子育て層にとって魅力的でない。施設のプログラム、取組みを子育て層が参加しやすい内容にする工夫も大切だが、同時に名称変更をするなどした

いと、利用率はあがらないのではないか。

- ・ 公民館に市の窓口業務を設置することで公民館を訪れる人が増え、利用率があがるのではないか。公民館の利便性も増す。

**若い層をはじめとして利用者数を増やしたいのであれば、公共施設に無料Wi-Fiスポットなどのインターネット環境を整え、公民館等は夜間利用やインターネット予約を可能にするなど工夫が必要である。**

- ・ 公民館は夜間利用が出来るようにする、インターネットで予約確認ができるようになるなど貸館・貸室業務を充実させ、利用率をあげる工夫が必要である。
- ・ 若い人にとってインターネットは必須である。公共施設にインターネット環境（無料Wi-Fiスポットなど）を整える必要がある。

**効率的かつ質の高い運営を行うために、民間のノウハウや活力を導入すべきである。**

- ・ 施設の維持・管理コストを下げる、効率的に質の高い運営を行うために、民間のノウハウや活力を導入すべき。名古屋の御園座における民間の活用などの事例は、市民会館の再建の参考にもなる。ちなみに、蒲郡市民病院と名古屋市立大学との間でも、共同研究や人事交流を行うなど、効率的で質の高い運営に向けた連携も進んでいる。

## 2. 課題解決のための具体策について

### ■施設再編の方向性

先行して府相公民館が竹島小学校の敷地へ移設し、建て替わるが、今後の公共施設の再編のモデルケースとして、参考になるだろう。特に、若い子育て世代の公民館利用を促進するよい機会となることを期待している。その様子を見てから他の公民館や小学校の複合化を具体的に検討するのでもよいのではないか。

- ・ 今後、公民館や小学校を複合化するのであれば、先行して府相公民館が竹島小学校の敷地へ移設することが決まっているので、その様子を見てから具体的内容を検討するのでもよいのではないか。
- ・ 竹島小学校への府相公民館の移設・建替えは、公共施設再編の格好のモデルケースとなるので、地域としても積極的に進めていきたい。とくに、若い子育て世代などの公民館利用を促すきっかけになることを期待している。

東部地域は、蒲郡南地区のなかでも別の地域としての認識が強い。他地域との施設統合は馴染まない。施設再編するならば東部地域内で複合化する方向ではないか。

- ・ 東部地域（東部地区）は昔から蒲郡南地区のなかでも、地域が別になっているので、他地域との施設統合は馴染まない。施設再編するならば東部地域内で複合化する方向ではないか。

小江公民館は、駐車場が狭く、他の公民館との配置のバランスを考慮しても、現地での建替えは考えにくい。蒲郡公民館の建替えの際には統廃合の議論がまとまらなかったが、やはり蒲郡公民館と統合するのがよいのではないか。

- ・ 公民館の配置について、客観的にみると、小江公民館と蒲郡公民館は近いので一緒にするのが合理的と思う。
- ・ 小江公民館は駐車場が少なく、また他の公民館との配置のバランスを考慮しても、現地での建て替えは考えにくいのではないか。蒲郡公民館の建替えの際には統廃合の議論がまとまらなかったが、今後は避けて通れない。

小江公民館をどうしても残したいという思いが強いのは、高齢の方が多く感じるが、公民館自体は、小江地区のコミュニティの中心を担っている。お祭りも盛んなことから神社と切り離すこともできないだろう。そのため、移転させることは難しいが、公民館としてではなく、地区の集会所としてでも残すことが望ましい。

- ・ 小江には集会所がなく公民館がその役割を担っており、コミュニティの中心になっている。お祭りがあり神社から切り離すことはできないため、現在の場所から公民館を移転することは難しい。公民館としてではなく、地区の集会所としてでも構わないので、施設を残しておくことが望ましい。
- ・ 小江公民館をどうしても残したい思いが強いのは高齢世代ばかりになっている。

公共施設の再編にあたっては、立地適正化のまちづくりの観点を大切にしつつ、公共施設周辺の地域や利用者数の状況等によって、用途等を柔軟に見直していくことが求められる。

- ・ 施設再編にあたっては、公共施設周辺の地域の状況や利用者数の変化に応じて、施設の設置目的や用途を柔軟に見直していくことが求められる。
- ・ 公共施設の建替えには、立地適正化のまちづくりの観点から、施設の立地場所の全市的な見直しが必要である。まず立地適正化計画の策定が求められる。

#### ■施設の複合化について

高齢者が多く利用する公民館と、小中学校の複合化は、世代間の交流が生まれ、施設利用も活発になるなど、様々な相乗効果も期待できるので良い。また、竹島小学校の敷地に津波浸水想定域にある府相保育園を移設するとともに、児童クラブの機能を拡充するなどして、育児・子育て・教育関連の機能を複合化したらどうか。

- ・ 竹島小学校のゆとりある土地を有効活用して、津波浸水想定域にある府相保育園を移設するとともに、児童クラブの機能を拡充するなど、子育て・教育関連の機能を集約して複合化したらどうか。
- ・ 高齢者が多く利用する公民館のような施設と、子ども達が通う小中学校の複合化は、世代間の交流が生まれ施設の利用も活発になるなど、様々な相乗効果も期待できるので良いとおもう。豊橋市では、小学校のそばに公民館を整備している。

#### ■学校の統合

市の「公共施設の床面積を3割縮減する」という方針を踏まえると、延床面積が大きい学校の統廃合をするしかないかもしれないが、その際、東部地区は昔から蒲郡南地区とは別の地域区分の認識であること、各小学校の歴史的経緯、今後の児童数減少の見込み、三谷地区のワークショップで竹島小学校に通学している三谷地区の子どもたちを三谷小学校に通わせようという話が出ていることを踏まえると、竹島小学校が蒲郡南部小学校に統合されるのが自然ではないかと考える。ただし、ここで決められることではない。

- ・ 東部地域（東部地区）は昔から蒲郡南地区とは別の地域区分なので、小学校の統廃合があるとすれば、蒲郡南小学校と竹島小学校がまず検討されるべきと思う。
- ・ 三谷地区の子どもが竹島小学校に通学しているが、三谷地区のワークショップでは、竹島小学校に通う三谷地区の児童たちを三谷小学校に通わせようという話が出ているそうである。三谷は、お祭りも盛んな地区だし、地域コミュニティの関係でそのような意見が出るのは理解できる。もしそうなれば、竹島小学校の児童数はかなり減少するだろう。
- ・ 市の「公共施設の床面積を3割縮減する」という方針を踏まえると、延床面積が大きい学校の統廃合をするしかないかもしれないが、歴史的な経緯を踏まえると、古くからある蒲郡南部小学校は、この地区にとっては外せない施設である。竹島小学校が蒲郡南部小学校に統合されるのが自然ではないかと考えるが、ここで決められることで

はない。

- ・ 竹島小学校は、今後さらに児童数の減少が見込まれるので、学校の適正配置を考えるなら、蒲郡南部小学校へ統合するべきではないか。
- ・ 竹島小学校も 40 年の歴史を重ね、竹島小卒業の親世代もいる。それなりに母校意識はできていると思う。

もともと人口増加によって蒲郡南小学校から竹島小学校と中央小学校が分かれた経緯がある。人口減少により統合が避けられないのであれば、この3校を統廃合の対象とし、竹島小学校と中央小学校は蒲郡南部小学校へ統合したらどうか。

- ・ もともと人口増加によって蒲郡南小学校から竹島小学校と中央小学校が分かれたので、人口減少で統廃合するならば、この3校を統廃合の対象として検討するのが素直な考えになる。
- ・ 将来的な児童数の減少に対応するとともに、三谷地区から通っている子ども達を含めた学校区と区の境界の見直しが必要であることから、竹島小学校と中央小学校は蒲郡南部小学校へ統合したらどうか。その跡地を有効活用し、竹島小学校跡には図書館機能、中央小学校跡には体育館の機能などを整備してほしい。

将来的な生徒数の減少を考えると、いずれは蒲郡中学校と中部中学校の統合まで視野に入れて考える必要もあるのではないか。

- ・ 将来的な生徒数の減少を考えると、いずれは蒲郡中学校と中部中学校の統合まで視野に入れて考える必要もあるのではないか。

#### ■ 保育園の統合

保育園はどこでも通園してよいことになっている。津波浸水想定域内にある府相保育園と三谷西保育園は学校区が異なるが、統合しても違和感はないのではないか。何よりも子育て層にとっては、子どもの安全が第一である。

- ・ 現在、保育園はどこでも通園してよいことになっている。津波浸水想定域内にある府相保育園と三谷西保育園は学校区が異なるが、統合しても違和感はないのではないか。何よりも子育て層にとっては、子どもの安全が第一である。統合して安全な場所に移るのは、“あり” だと思う。

空調設備や、交通面、防犯面、災害時対応など、あらゆる面で子どもの安全を第一とした。特に、府相保育園は津波浸水想定域内であることから、安全な地域への移転を優先してほしい。

- ・ 府相保育園は津波浸水想定域内から安全な地域への移転を優先して考えるべき。子どもの安全な環境は第一優先としたい。例えば、府相保育園の浸水想定域、猛暑のなかの空調無し、通学路の交通安全、防犯など。

### 3. その他

#### ■今回の検討や今後の進め方について

市の財政状況等の資料がほしい。その上で、市として人口減少、税収減についてはどのような対策があるのかを知りたい。ワークショップで検討する前に、市のビジョンを明確に示すべきである。

- ・ 市のビジョンを先に明確に示すべきである。ワークショップの議論はその後に行うのがよい。市として人口減少、税収減に対してどのような対策を取るのかを示してほしい。
- ・ 「観光振興か産業振興か」など、市の方針がみえない。人口減少だけでなく、どう人口を増やすのかも議論が必要ではないか。
- ・ 市の財政状況や、平成 29 年度の経常収支比率はどうなっているのか。
- ・ 防犯や防災の対策も行政が考えるべきではないか。

現在のコミュニティバスを見直す委員会が設置され、検討が始まる。今回の公共施設再編の検討とも連携して進めてほしい。

- ・ 名鉄バス路線の廃止を受けて始まったコミュニティバスは、バスの便数が少ない、利用者が少ない、高齢者のニーズに合っていないなど、様々な課題を抱えている。現在、コミュニティバスを見直す委員会が設置され検討を始めている。この公共施設再編の検討とも連携するとよい。

#### ■その他

- ・ 保育園や児童館など施設によってエアコンの有無などの環境が違っている。子どもの遊びや学びの環境はどこも平等に確保してほしい。
- ・ 役や係などの責任を担いたくない理由で常会や子ども会などの活動に参加しない人が増えている。近隣住民とのつながりが大切だと思うので、地域での活動を盛り上げていくためには考えなければいけない課題である。
- ・ 人口減少対策として宮成町の公営住宅の建て替えをすれば良いのではないか。